

人間発達学部
UMEMOTO Yutaka
PROFILE
職名
学校法人京都橘学園理事長 人間発達学部 英語コミュニケーション学 科教授
学歴
東京大学大学院教育学研究 科学学校教育学専攻博士課程 単位取得後退学（1986）
学位
教育学修士（東京大学、 1982）
所属学会
日本教育学会、日本教育方 法学会、日本カリキュラム 学会
専門分野
教育方法学、教育課程論

梅本 裕

うめもと ゆたか

研究課題1●授業の研究

研究課題2●英語教育への教授学的アプローチ

研究課題3●カリキュラム評価

研究課題4●教師教育

業 績

【著書】

『教師』/「講座現代社会教育」第5巻、大月書店、1993年3月、共著。

『世界の教育課程改革』/「カナダBC州のカリキュラム改革」、『教育研究資料』第4集、民主教育研究所、1996年7月、共著。

『海外の「総合的学習」の実践に学ぶ』/1章「カナダの総合的学習―教科の統合から総合的学習へ―」、明治図書、1999年6月、共著。

『GDM 英語教授法の理論と実践』/松柏社、1999年6月、共著。

『現代カリキュラム事典』/「外国語教育の研究動向」「外国語教育の学習指導要領の変遷」「英米文学教育」「新英米文学教育」「新英語教育研究会」、ぎょうせい、2001年3月、共著。

『よくわかる新教育課程実践マニュアル』/「中学校『外国語』の新教育課程」「『外国語』の基礎的・基本的内容の確実な定着」「高等学校『外国語』の新教育課程」、新教育開発研究所、2001年、共著。

『新しい英語科教育法―理論と実践のインターフェイス―』/「授業分析の目的と方法」、現代教育社、2002年4月、共著。

【論文】

「英語教育についての研究ノート―言語・メタファー・言語教育」/『教育学基礎理論研究』10巻1号、教育学基礎理論研究会編集、1982年7月、単著。

「入門期英語教育における―論点―教材構成・授業構成に関して」/『教育内容研究』4集、東京大学教育学部教育内容研究室編集、1983年5月、単著。

「G.D.M.の授業の理論的研究をめざして―授業分析へのいくつかの視点」/『英語教授法通信』第37号、G.D.M.英語教授法研究会編集、1985年6月、単著。

『『追求の鬼』を育てる社会科の授業』/『教育』459号、教育科学研究会編集、1985年11月、単著。

「教師の社会観と授業づくり」/『教育科学社会科教育』281号、1986年3月、単著。

「文献案内・分析批評と国語教育」/『教育』475号、教育科学研究会編集、1986年12月、単著。

『『ドル平』泳法の秘密』/『授業づくりネットワーク』1号、ネットワーク編集委員会、学事出版、1988年4月、単著。

「1930年代のベーシック・イングリッシュの受容について―岡倉由三郎と3つのグループ』/『京都橘女子大学研究紀要』第16号、1989年12月、単著。

「吉沢郁生氏の英語の授業―一般動詞seeを教える―」/『授業づくりネットワーク』19号、ネットワーク編集委員会、学事出版、1990年2月、単著。

「日本のベーシック・イングリッシュ運動」/『英語教授法通信』第42号、G.D.M英語教授法研究会、1990年6月、単著。

「今日の大学外国語カリキュラム改革の諸特徴」/『京都橘女子大学研究紀要』第18

号、1991年12月、単著。

「大学英語のスタートはリズムと短編小説だ」/『授業づくりネットワーク』60号、ネットワーク編集委員会、学事出版、1992年11月、単著。

『『2000年（Year 2000）』計画の概要と授業改造―カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州における教育改革について―』/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』創刊号、1993年3月、単著。

「シンポジウム リチャーズ・ナウ」/『京都精華大学紀要』第6号、1994年1月、共著。

「海外短期研修プログラムのカリキュラムをどう評価するか（その1）―基礎的観点・概念の検討―」/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第3号、1995年2月、単著。

「未来の授業を提案する―英話―」/『授業づくりネットワーク』119号、ネットワーク編集委員会、学事出版、1997年1月、単著。

「大学における一般教養の意味についての研究ノート―会話の作法と一般教養教育―」/『京都橘女子大学研究紀要』第24号、1997年12月、単著。

「教育におけるユーモア―ユーモアの二つの役割』/『授業づくりネットワーク』143号、ネットワーク編集委員会、学事出版、1998年6月、単著。

「英語科と教室ディベート」/『教室ディベートへの挑戦』13集、学事出版、1998年11月、単著。

「教師が教えすぎない英語の授業をつくろう―慶応大学湘南藤沢キャンパスが開発した教科書『発信する大学英語』を推す―」/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第8号、2000年3月、単著。

「大学入門期教育の内容と方法の探求―一般教育における『現代社会と法』を素材にして―」/『京都橘女子大学研究所紀要』第27号、2001年2月、共著。

‘Teaching English Rhythm through Music to Japanese Adult Learners―A Theoretical Framework―’/『京都橘女子大学外国語教育研究センター』第10号、2002年2月、共著。

「国際理解教育としての小学校英語教育の可能性」/『授業づくりネットワーク』199号、2002年2月、単著。

【翻訳】

『心理学概説―集団と人格―』（ペトロフスキー著）/ナウカ、1988年11月、共訳。

『動詞革命―新しい英文法へのアプローチ―』（マイケル・ルイス著）/三友社出版、1991年2月、単訳。

「ロビン・バロウの『カリキュラム研究批判序説』：解説と翻訳」/『京都橘女子大学研究紀要』第22号、1995年12月、単訳。

【国内学会発表】

「アメリカにおける大学入門期カリキュラム開発の検討―Willimon と Naylor の The Search for Meaning の分析を中心に―」/第9回日本カリキュラム学会、福島大学、1998年7月、単独。

「表現意欲を引き出す英語科教育法のカリキュラムと授業―〈学習者〉から〈教育者〉への橋を架ける―」/全国私立大学教職課程連絡協議会第22回研究大会、2002年5月、単独。

【国際学会発表】

‘From “Communication” to “Conversation” ―Developing First-Year Program for Japanese Students―’/12th International Conference on The First-Year Experience, Scotland, Edinburgh、1999年7月、単独。

‘Redefining a Study Skills-based Approach―Developing First-Year Programs for Japanese Students’/15th The international Conference on The First-Year Experience, July 1-4, University of Bath, England. National Resource Center for The First-Year Experience and Students in Transition、2002年、単独。